



デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの使用方法

この章は、次の内容で構成されています。

- デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて, [on page 1](#)
- 注意事項と制約事項 (3 ページ)
- ファイルシステム パラメータのデフォルト設定, [on page 3](#)
- FTP、HTTP、または TFTP 送信元インターフェースの構成 (3 ページ)
- ディレクトリの操作, [on page 4](#)
- ファイルの使用, [on page 7](#)
- アーカイブ ファイルの操作 (15 ページ)
- SSD の再パーティション化 (18 ページ)
- 技術サポート コマンドの有効化または無効化 (20 ページ)
- 技術サポート でブロックされた CLI の表示 (21 ページ)
- ファイル システムの使用例, [on page 22](#)

デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて説明します。

ファイルシステム

ローカル ファイル システムを指定するための構文は、`filesystem:[//modules/]` です。

次の表に、デバイス上で参照可能な各種ファイルシステムの説明を示します。

Table 1: ファイルシステムの構文の構成要素

ファイルシステム名	モジュール	説明
ブートフラッシュ	sup-active sup-local	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにアクティブスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。初期デフォルトディレクトリは bootflash です。
	sup-standby sup-remote	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにスタンバイスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。
volatile	—	スーパーバイザモジュールにある、一時的または保留中の変更のために使用される揮発性 RAM (VRAM)。
log	—	ロギングファイル統計情報を格納する、アクティブスーパーバイザ上のメモリ。
system	—	実行コンフィギュレーションファイルを格納するために使用される、スーパーバイザモジュール上のメモリ。
debug	—	デバッグログに使用される、スーパーバイザモジュール上のメモリ。

ディレクトリ

bootflash: および外部フラッシュメモリ (usb1:、および usb2:) にディレクトリを作成できます。これらのディレクトリ間を移動して、ファイルの保存に使用できます。

ファイル

bootflash:、volatile:、slot0:、usb1:、およびusb2: ファイルシステムにファイルを作成し、アクセスします。system: filesystem 上のファイルにのみアクセスできます。 **debug logfilecommand** には、log: ファイルシステムを使用できます。

FTP、Secure Copy (SCP)、セキュアシェルFTP (SFTP)、およびTFTPを使用して、リモートサーバーからnx-osイメージファイルなどのファイルをダウンロードできます。デバイスがSCPサーバーとして動作できるので、外部サーバーからデバイスへファイルをコピーすることもできます。

注意事項と制約事項

デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの注意事項と制限事項は次のとおりです。

- **show tech-support details** コマンドは、Ctrl+Zを使用して終了できません。代わりに、Ctrl+Cを使用してコマンドを終了します。
- 「network-admin」ロールを持つユーザーを利用して、ブートフラッシュ内のファイルを変更します。

ファイルシステムパラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイルシステムパラメータのデフォルト設定を示します。

Table 2: デフォルトのファイルシステム設定

パラメータ	デフォルト
デフォルトファイルシステム	bootflash:

FTP、HTTP、またはTFTP送信元インターフェイスの構成

File Transfer Protocol (FTP)、Hypertext Transfer Protocol (HTTP)、または Trivial File Transfer Protocol (TFTP) の送信元インターフェイスを構成できます。この構成により、コピーパケットを転送する際に、設定した送信元インターフェイスに関連付けられた IP アドレスを使用することができます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] ip {ftp | http | tftp} source-interface {ethernet slot/port | loopback number}**

3. (任意) `copy running-config startup-config`

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	[no] ip {ftp http tftp} source-interface {ethernet slot/port loopback number} 例： switch(config)# ip tftp source-interface ethernet 2/1	すべてのFTP、HTTP、またはTFTPパケットの送信元インターフェイスを構成します。
ステップ 3	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ディレクトリの操作

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでディレクトリを操作する手順を説明します。

カレント ディレクトリの特定

カレント ディレクトリのディレクトリ名を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. `pwd`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	pwd Example: switch# pwd	カレント ディレクトリの名前を表示します。

カレントディレクトリの変更

ファイルシステムの操作のためカレントディレクトリを変更できます。初期デフォルトディレクトリは `bootflash:` です。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) `pwd`
2. `cd {directory | filesystem:[//module/] [directory]}`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) <code>pwd</code> Example: <code>switch# pwd</code>	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	<code>cd {directory filesystem:[//module/] [directory]}</code> Example: <code>switch# cd usb1:</code>	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの作成

`bootflash:` およびフラッシュ デバイス ファイルシステムでディレクトリを作成できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) `pwd`
2. (Optional) `cd {directory | filesystem:[//module/] [directory]}`
3. `mkdir [filesystem:[//module/] directory]`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) <code>pwd</code> Example: <code>switch# pwd</code>	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。

ディレクトリの内容の表示

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	(Optional) <code>cd {directory filesystem:[//module/][directory]}</code> Example: <code>switch# cd slot0:</code>	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	<code>mkdir [filesystem:[//module/]]directory</code> Example: <code>switch# mkdir test</code>	新しいディレクトリを作成します。 <i>filesystem</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 <i>directory</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの内容の表示

ディレクトリの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. `dir [directory | filesystem:[//module/][directory]]`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<code>dir [directory filesystem:[//module/][directory]]</code> Example: <code>switch# dir bootflash:test</code>	ディレクトリの内容を表示します。デフォルト値は、現在の作業ディレクトリです。ファイルシステム名およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイルシステムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) `pwd`
2. (Optional) `dir [filesystem :[//module/][directory]]`
3. `rmdir [filesystem :[//module/]]directory`

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem</i> :[<i>//module</i>]/[<i>directory</i>]] Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [<i>filesystem</i> :[<i>//module</i>]/] <i>directory</i> Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

アクティブスーパーバイザモジュール上のセッションからスタンバイスーパーバイザモジュール（リモート）上のすべてのファイルシステムにアクセスできます。この機能は、アクティブスーパーバイザモジュールにファイルをコピーしたら、同じファイルをスタンバイスーパーバイザモジュール上にも存在させる必要がある場合に役立ちます。アクティブスーパーバイザモジュール上のセッションからスタンバイスーパーバイザモジュール上のファイルシステムにアクセスするには、*filesystem://sup-remote/* または *filesystem://sup-standby/* を使用して、ファイルのパスにスタンバイスーパーバイザモジュールを指定します。

ファイルの使用

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでファイルを使用する手順を説明します。

ファイルの移動

ディレクトリ内のファイルを別のディレクトリに移動できます。



Caution 宛先ディレクトリに同名のファイルがすでに存在する場合は、そのファイルは移動対象のファイルによって上書きされます。

move コマンドを使用して、同じディレクトリ内でファイルを移動することにより、ファイルの名前を変更できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
3. **move** [*filesystem:[//module/][directory /] | directory/*]*source-filename* { {*filesystem:[//module/][directory /] | directory/*}[*target-filename*] | *target-filename*}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	move [<i>filesystem:[//module/][directory /] directory/</i>] <i>source-filename</i> { { <i>filesystem:[//module/][directory /] directory/</i> }[<i>target-filename</i>] <i>target-filename</i> } Example: switch# move test old_tests/test1	ファイルを移動します。 ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

ファイルのコピー

ファイルのコピーは、同じディレクトリまたは別のディレクトリのいずれかで作成できます。詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS トラブルシューティング ガイド』を参照してください。



Note **dir** コマンドを使用して、コピー先のファイル システムに十分な領域があることを確認します。十分な領域が残っていない場合は、**delete** コマンドを使用して不要なファイルを削除します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
3. **copy** [*filesystem:[//module/][directory/] | directory/*]*source-filename* | [*filesystem:[//module/][directory/] | directory/*]*{target-filename}*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイル システムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy [<i>filesystem:[//module/][directory/] directory/</i>] <i>source-filename</i> [<i>filesystem:[//module/][directory/] directory/</i>] <i>{target-filename}</i> Example: switch# copy test old_tests/test1	ファイルをコピーします。ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> の引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

HTTP または HTTPS を使用したファイルのコピー

HTTP または HTTPS を使用して、リモート サーバのファイルのコピーをローカル デバイスに作成できます。



(注) Cisco NX-OS リリース 10.4(3)F 以降、**copy http** または **copy https** コマンドは、Cisco Nexus スイッチで TLS バージョン 1.3 および 1.2 をサポートします。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
3. **copy https:// username:password@directory/filename bootflash: vrf management**
4. **copy http:// directory/filename bootflash: vrf management**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	(任意) pwd 例： switch# pwd	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(任意) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] 例： switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy https:// username:password@directory/filename bootflash: vrf management 例： switch(config)# copy https://username1:pwd1@192.168.0.1/test.txt bootflash: vrf management	https オプションを使用して、指定されたファイルをリモートサーバからローカルデバイスにコピーします。
ステップ 4	copy http:// directory/filename bootflash: vrf management 例： switch(config)# copy http://192.168.0.1/test.txt bootflash: vrf management	http オプションを使用して、指定されたファイルをリモートサーバからローカルデバイスにコピーします。

ファイルの削除

ディレクトリからファイルを削除できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
2. **delete** {*filesystem:[//module/][directory/]* | *directory/*}*filename*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash:	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	delete { <i>filesystem:[//module/][directory/]</i> <i>directory/</i> } <i>filename</i> Example: switch# delete bootflash:old_config.cfg	ファイルを削除します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 Caution 1つのディレクトリを指定している場合、 delete コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。

ファイル内容の表示

ファイルの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [*filesystem:[//module/][directory/]*]*filename*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/][directory/]</i>] <i>filename</i> Example: switch# show file bootflash:test-results	ファイルの内容を表示します。

ファイルチェックサムの表示

ファイルの整合性をチェックするチェックサムを表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [*filesystem:[//module/][directory/]*]*filename* {*cksum* | *md5sum*}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> { <i>cksum</i> <i>md5sum</i> } Example: switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum	ファイルのチェックサムまたは MD5 チェックサムを表示します。

ファイルの圧縮と解凍

Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用してデバイス上のファイルを圧縮および圧縮解除できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/]*]*directory*]
2. **gzip** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*] | *directory/*]*filename*
3. **gunzip** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*] | *directory/*]*filename* **.gz**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/]</i>] <i>directory</i>] Example: switch# dir bootflash:	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	gzip [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>directory/</i>] <i>filename</i> Example: switch# gzip show_tech	ファイルを圧縮します。ファイルが圧縮されると、 .gz サフィクスが付けられます。
ステップ 3	gunzip [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>directory/</i>] <i>filename</i> .gz Example: switch# gunzip show_tech.gz	ファイルを圧縮解除します。圧縮解除するファイルのサフィクスは、 .gz である必要があります。ファイルが圧縮解除されると、サフィクスは .gz ではありません。

ファイルの最終行の表示

ファイルの最後の行を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **tail** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*]*filename* [*lines*]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	tail [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> [<i>lines</i>] Example: switch# tail ospf-gr.conf	ファイルの最後の行を表示します。デフォルトの行数は 10 です。有効な範囲は 0 ~ 80 行です。

ファイルへの **show** コマンド出力のリダイレクト

show コマンド出力は、bootflash:、slot0:、volatile:、またはリモートサーバ上のファイルにリダイレクトできます。また、コマンド出力のフォーマットを指定することもできます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **terminal redirection-mode** {*ascii* | *zipped*}
2. *show-command* > [*filesystem:[//module/]*][*directory*] | [*directory /*]*filename*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) terminal redirection-mode { <i>ascii</i> <i>zipped</i> } Example: switch# terminal redirection-mode zipped	ユーザー セッションに対して show コマンド出力のリダイレクションモードを設定します。デフォルトモードは ascii です。
ステップ 2	<i>show-command</i> > [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory</i>] [<i>directory /</i>] <i>filename</i> Example: switch# show tech-support > bootflash:techinfo	show コマンドからの出力をファイルにリダイレクトします。

ファイルの検索

特定のストリングで始まる名前を持つファイルを現在の作業ディレクトリとそのサブディレクトリで検索できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **cd** *{filesystem:[//module/][directory] | directory}*
3. **find filename-prefix**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) cd <i>{filesystem:[//module/][directory] directory}</i> Example: switch# cd bootflash:test_scripts	デフォルトディレクトリを変更します。
ステップ 3	find filename-prefix Example: switch# find bgp_script	指定したファイル名プレフィックスで始まるすべてのファイル名をデフォルトディレクトリとそのサブディレクトリで検索します。ファイル名プレフィックスでは、大文字と小文字が区別されます。

ブートフラッシュのフォーマット

format bootflash: CLI コマンドを使用して、オンボードフラッシュメモリ (bootflash:) をフォーマットします。すべての仮想サービスをアクティブ解除し、もう一度実行してください (Deactivate all virtual-services and try again) というエラーメッセージが原因でコマンドがエラーになった場合は、**guestshell destroy** CLI コマンドを使用してゲストシェルを破棄し、次のように **format bootflash:** コマンドを再実行します。

```
switch# sh virtual-service list
Virtual Service List:

Name                Status              Package Name
-----
guestshell+         Activated           guestshell.ova

switch#

switch# guestshell destroy
You are about to destroy the guest shell and all of its contents. Be sure to save your
work. Are you sure you want to continue? (y/n) [n] y

switch# 2018 Jan 17 18:42:24 switch %$ VDC-1 %$ %VMAN-2-ACTIVATION_STATE: Deactivating
virtual service 'guestshell+'
```

```
switch#format bootflash:
```

アーカイブファイルの操作

Cisco NX-OS ソフトウェアはアーカイブファイルをサポートしています。アーカイブファイルを作成したり、既存のアーカイブファイルにファイルを追加したり、アーカイブファイルからファイルを抽出したり、アーカイブファイル内のファイルのリストを表示したりすることができます。

アーカイブファイルの作成

アーカイブファイルを作成し、アーカイブファイルにファイルを追加できます。次の圧縮タイプを指定できます。

- bzip2
- gzip
- 未圧縮

デフォルト値は gzip です。

手順の概要

1. **tar create** {bootflash: | volatile:}archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>tar create {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list</p> <p>例 :</p> <pre>switch# tar create bootflash:config-archive gz-compress bootflash:config-file</pre>	<p>アーカイブファイルを作成し、アーカイブファイルにファイルを追加します。ファイル名は英数字で指定します（大文字と小文字は区別されません）。最大文字数は 240 です。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>bz2-compress、gz-compress、および uncompressed のキーワードは、アーカイブにファイルを追加するとき（または後で追加するとき）に使用する圧縮</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>ユーティリティと、ファイルを抽出するときに使用する解凍ユーティリティを決定します。アーカイブファイルに拡張子を指定しない場合、デフォルト値は次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bz2-compress の場合、拡張子は <code>.tar.bz2</code> です。 • gz-compress の場合、拡張子は <code>.tar.gz</code> です。 • uncompressed の場合、拡張子は <code>.tar</code> です。 <p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。</p>

アーカイブファイルへのファイルの追加

デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを追加できます。

始める前に

デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. `tar append {bootflash: | volatile:}archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list`

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>tar append {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list</code>	<p>既存のアーカイブファイルにファイルを追加します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (<code>\</code>) を、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デ</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>フォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。</p>

例

次に、既存のアーカイブファイルにファイルを追加する例を示します。

```
switch# tar append bootflash:config-archive.tar.gz bootflash:new-config
```

アーカイブファイルからのファイルの抽出

デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを抽出できます。

始める前に

デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. **tar extract** {bootflash: | volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: | volatile:}[/directory-name]] [verbose]

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>tar extract {bootflash: volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: volatile:}[/directory-name]] [verbose]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# tar extract bootflash:config-archive.tar.gz</pre>	<p>既存のアーカイブファイルからファイルを抽出します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>keep-old キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>screen キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p> <p>to キーワードは、ターゲットファイルシステムを指定します。ディレクトリ名を含めることができます。ディレクトリ名は、240 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルの名前を表示することを指定します。</p>

アーカイブファイルのファイル名の表示

tar list コマンドを使用して、アーカイブファイル内のファイルの名前を表示できます。

tar list {bootflash: | volatile:}archive-filename

アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。

```
switch# tar list bootflash:config-archive.tar.gz
config-file
new-config
```

SSD の再パーティション化

構成ストレージ領域を増やすには、次の手順を実行します。これにより、ログフラッシュストレージのサイズも増加します。この構成はシステムのリロード後に有効になり、構成およびログフラッシュのストレージ領域が追加されます。ブートフラッシュのサイズは減少します。SSD の再パーティショニングを実行する前に、すべてのソフトウェアイメージ、構成、および個人データがバックアップされていることを確認してください。

拡張パーティションスキームは、64GB SSD を搭載したプラットフォームではサポートされていません。

手順の概要

1. system flash sda resize

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>system flash sda resize</p> <p>例 :</p> <pre>switch# system flash sda resize ? <CR> extended Cfg=1GB, logflash=39GB standard Cfg=64MB, logflash=4 8GB</pre>	<p>永続ストレージのサイズを新しいスキームに変更します。</p>

例

次に、標準サイズ変更の例を示します。

```
switch# system flash sda resize extended

!!!! WARNING !!!!

      Attempts will be made to preserve drive contents during
      the resize operation, but risk of data loss does exist.
      Backing up of bootflash, logflash, and running configuration
      is recommended prior to proceeding.

!!!! WARNING !!!!

current scheme is
sda          8:0    0 119.2G  0 disk
|-sda1       8:1    0  512M  0 part
|-sda2       8:2    0   32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3    0  128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4    0 110.5G  0 part /bootflash
|-sda5       8:5    0   64M  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6    0   64M  0 part /mnt/cfg/1
`-sda7       8:7    0    8G  0 part /logflash

target scheme is
sda          8:0    0 120GB|250GB  0 disk
|-sda1       8:1    0   512M  0 part
|-sda2       8:2    0    32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3    0   128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4    0    rem   0 part /bootflash
|-sda5       8:5    0   1.0G  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6    0   1.0G  0 part /mnt/cfg/1
|_sda7       8:7    0    39G  0 part /logflash

Continue? (y/n) [n] y
      A module reload is required for the resize operation to proceed
      Please, do not power off the module during this process.
```

次に、拡張サイズ変更の例を示します。

```

switch# system flash sda resize extended

!!!! WARNING !!!!

    Attempts will be made to preserve drive contents during
    the resize operation, but risk of data loss does exist.
    Backing up of bootflash, logflash, and running configuration
    is recommended prior to proceeding.

!!!! WARNING !!!!

current scheme is
sda          8:0      0 119.2G  0 disk
|-sda1       8:1      0   512M  0 part
|-sda2       8:2      0    32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0   128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0 110.5G  0 part /bootflash
|-sda5       8:5      0    64M  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0    64M  0 part /mnt/cfg/1
|-sda7       8:7      0     8G  0 part /logflash

target scheme is
sda          8:0      0 120GB|250GB  0 disk
|-sda1       8:1      0   512M  0 part
|-sda2       8:2      0    32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0   128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0    rem   0 part /bootflash
|-sda5       8:5      0   1.0G  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0   1.0G  0 part /mnt/cfg/1
|_sda7       8:7      0    39G  0 part /logflash

Continue? (y/n) [n] y
    A module reload is required for the resize operation to proceed
    Please, do not power off the module during this process.

```

技術サポートコマンドの有効化または無効化

tech-support コマンドを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. `system tech-support blocked-commands sample_list`
2. `clear system tech-support blocked-commands`

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>system tech-support blocked-commands sample_list</code> 例 :	tech-support のブロック コマンドリストを有効にします。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch# system tech-support blocked-commands sample_list Successfully enabled tech-support blocked commands list</pre>	<p>このコマンドは、sample_list のリストにある show コマンドの実行を、show tech-support details [time-optimized]、show tech-support all [time-optimized]、および show tech-support commands からブロックします。上記の show-tech コマンドでは、リストされているコマンドは実行されず、スキップされます。</p>
ステップ 2	<p>clear system tech-support blocked-commands</p> <p>例 :</p> <pre>switch# clear system tech-support blocked-commands Successfully cleared tech-support blocked commands list</pre>	<p>tech -support ブロック コマンドリストをクリアします。</p>

技術サポートでブロックされた CLI の表示

次のコマンドを使用して、テクニカルサポート **blocked-commands** リストのステータスを確認できます。

手順の概要

1. **show system tech-support blocked-commands status**
2. **run bash cat /bootflash/sample_list**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>show system tech-support blocked-commands status</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show system tech-support blocked-commands status Tech-support blocked commands list status: Disabled switch# show system tech-support blocked-commands status Tech-support blocked commands list status: Enabled Blocked command file: /bootflash/sample_list Last modified time: Thu Dec 7 07:03:02 2023</pre>	<p>テクニカルサポートブロック コマンドリストのステータスを表示します。</p> <p>コマンドリストが有効になっている場合は、ファイル名が表示されます。</p>
ステップ 2	<p>run bash cat /bootflash/sample_list</p> <p>例 :</p> <pre>switch# run bash cat /bootflash/sample_list show version show inventory</pre>	<p>ブロックされたコマンドファイルを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファイルの最大長は 128 です。 • これは EXEC モード コマンドですが、blocked-commands は、ファイルが <i>/bootflash</i> に

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>show module show tech-support snmp</pre>	<p>保持され、すべてのリロードにわたって保持される限り有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイルが削除された場合でも、blocked-commandsの状態は有効のままですが、ファイルが削除されているので効果はありません。 このファイルには読み取り権限が必要です。

ファイルシステムの使用例

この項では、Cisco NX-OS デバイスでファイルシステムを使用する例について説明します。

スタンバイスーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

次に、スタンバイスーパーバイザモジュール上のファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash://sup-remote
 4096   Oct 03 23:55:55 2013  .patch/
...
 16384   Jan 01 13:23:30 2011  lost+found/
297054208 Oct 21 18:55:36 2013  n9000-dk9.6.1.2.I1.1.bin
...

Usage for bootflash://sup-remote
1903616000 bytes used
19234234368 bytes free
21137850368 bytes total
```

次に、スタンバイスーパーバイザモジュール上のファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash://sup-remote/aOldConfig.txt
```

ファイルの移動

次に、外部フラッシュ デバイス上のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、デフォルト ファイル システム内のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move samplefile mystorage/samplefile
```

ファイルのコピー

次に、usb1:ファイルシステムのルートディレクトリから、samplefileというファイルをmystorageディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、カレントディレクトリ レベルからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy samplefile mystorage/samplefile
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュからスタンバイ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy bootflash:nx-os-image bootflash://sup-2/nx-os-image
```

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```
switch# copy nvram:snapshot-config nvram:startup-config
```

```
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config:  
Do you wish to continue? {y/n} [y] y
```

copy コマンドを使用して、bootflash: ファイルシステムと FTP、TFTP、SFTP、または SCP サーバーとの間でファイルのアップロードおよびダウンロードを行うこともできます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイルシステムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [filesystem :[/module/][directory]]
3. **rmdir** [filesystem :[/module/]]directory

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem</i> :[<i>//module</i>]/[<i>directory</i>]] Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [<i>filesystem</i> :[<i>//module</i>]/] <i>directory</i> Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ファイル内容の表示

外部フラッシュ デバイスのファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file usb1:test
configure terminal
interface ethernet 1/1
no shutdown
end
show interface ethernet 1/1
```

現在のディレクトリに存在するファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file myfile
```

ファイルチェックサムの表示

次に、ファイルのチェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum
583547619
```

次に、ファイルの MD5 チェックサムを表示する例を示します。


```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg md5sum
3b94707198aabefcf46459de10c9281c
```

ファイルの圧縮と解凍

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
switch# gzip volatile:Samplefile
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
```

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します

```
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
switch# gunzip samplefile
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
```

show コマンド出力のリダイレクト

次に、出力を bootflash: ファイルシステム上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > bootflash:switch1-intf.cfg
```

次に、出力を外部フラッシュメモリ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > usb1:switch-intf.cfg
```

次に、出力を TFTP サーバ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > tftp://10.10.1.1/home/configs/switch-intf.cfg
Preparing to copy...done
```

次に、**show tech-support** コマンドの出力をファイルにダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > Samplefile
Building Configuration ...
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
Usage for volatile://
 1527808 bytes used
 19443712 bytes free
```

```
20971520 bytes total
```

ファイルの検索

次に、現在のデフォルト ディレクトリ内でファイルを検索する例を示します。

```
switch# find smm_shm.cfg  
/usr/bin/find: ./lost+found: Permission denied  
./smm_shm.cfg  
./newer-fs/isan/etc/routing-sw/smm_shm.cfg  
./newer-fs/isan/etc/smm_shm.cfg
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。